

## 2年生特技発表会



令和6年度

杉並区立松溪中学校

松溪だより

SHOU  
KEI

2月号



<http://www.suginami-school.ed.jp/shoukeichu/>

## 教育目標

- 自学・自立
- 思いやり・感謝
- 鍛錬

## 令和6年度杉並区教育調査結果について

杉並区では、例年「教育調査」を教員、保護者、学校運営協議会を対象に実施しています。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

以前は、各学校単位でアンケートを回収していましたが、昨年度からは保護者の皆様や学校運営協議会の委員の皆様には、教育委員会より Web からの直接入力で回収させていただきました。

なお、調査結果は肯定率の数値を用いています。肯定率とは回答の「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合になります。

### 【1】教員対象の調査結果

		肯定率	
		松溪中	区平均
1	授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている	83.3	67.8
2	授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている	83.3	54.2
3	授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている	100	76.2
4	学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている	83.3	76.6
5	学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている	83.3	70.8
6	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している	58.3	70.8
7	児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	58.3	61.3
8	連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	41.7	54.9
9	教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている	83.3	71.5
10	子どもと向き合う時間が確保できている	58.3	51.8
11	タイムマネジメントを意識して勤務できている	33.3	50.8
12	勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる	41.7	45.7
13	誇りややりがいをもって仕事を行うことができている	83.3	74.5
14	ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている	25	38.3
15	スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている	100	84.7
16	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	83.3	73.2
17	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている	58.3	46.4
18	授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている	75	67.1

本校の教員が区平均より肯定率が上回っている項目は黄色で塗りつぶしてあります。区平均より下回っている項目は6つありました。⑥の項目は学校運営協議会の役割について教員側の理解が進んでいない結果と感じます。アナウンスをさらにして参ります。⑦⑧の項目については、取組はしているがさらにできるところがあるのではと考えている教員が多いように感じます。今後、

さらに取組の検討を進めて参ります。⑪⑫⑭の項目では、仕事の多忙さを感じる教員が多いと考えます。業務の優先順位や仕事の効率化などの課題もあるかと思ひます。意識改革とともに、長時間勤務の改善と業務の工夫を、今後の課題としたいと思ひます。

## 【2】保護者対象の調査結果（回答数121名 回答率37.6%）

		肯定率	
		松溪中	区平均
1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている	54.5	57.2
2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	62.8	67.7
3	子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	47.9	47.9
4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	52.9	47.3
5	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	55.4	43.1
6	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	66.1	66.2
7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	47.1	33
8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	44.6	40.8
9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	66.1	64
10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	76.9	85.8
11	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわかり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている	47.9	43.7
12	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	36.4	37.4
13	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	19.8	25.4
14	子どもは、学校生活を楽しんでいる	64.5	70

本校の肯定率は、多くの質問項目で区全体の平均を上回っています。区の平均を下回った項目として、①「子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。」②「子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている」などがありますが、いずれも大きく下回っているものではありませんでした。

特に肯定率が低かったのは項目⑫、項目⑬でした。⑫「子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている」については、普段の教員の見守りに加え、年2回の「ふれあい月間アンケート」の実施と各学年で「QUTEST」を行っています。あわせて生徒と教員の二者面談等を今年度も実施しています。また、スクールカウンセラーとの連携などを行いながら諸問題についての未然防止に心掛けています。この項目内容は重要な課題であると考えています。今後もさらにこの課題に取り組んで参ります。⑬「学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。」については数値が低いですが、本校には特別支援学級がないため、質問項目のイメージがわきづらかったかことが一因かと思ひます。

教育調査の項目はどれも大切なものであると考えています。今回の結果を次年度の課題と捉え、さらなる改善に取り組んで参ります。

## 【3】学校運営協議会対象の調査結果（R5年度：7名回答、R6年度4名回答）

		肯定率	
		R6年度	R5年度
1	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている	75	57.1

2	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている	75	28.6
3	教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っている	75	71.4
4	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	100	71.4
5	児童・生徒 1 人 1 台専用のタブレット端末や学習 e ポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々での学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている	75	57.1
6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	50	28.6
7	学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している	100	71.4
8	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている	75	71.4

令和5年度に比べ、令和6年度の回答数は少なかったです。しかし、どの項目も昨年度を上回っています。今後も学校運営協議会の運営委員の方々と連携して、さらなる学校教育の向上に取り組んで参ります。